

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年 3月 20日

てらびあぽけっと 港南桜道教室

保護者等数(児童数) 44 回収数 24 割合 55 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	23					運動できる大教室があり、定員の4人には活動できる十分なスペースがある。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	19	3		2	先生によって差がある	ベテランの職員と新しい職員との力量に差はあるが、皆で研修しプログラムやセラピーについて向上できるように努力している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	22			1		バリアフリーになっていないので、重いですが必要なご利用者様を受け入れていない。大教室と小教室はしっかりと役割が決まっていますので分かりやすくなっている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	22				清掃整頓が良く出来ている いつもとてもきれいに保たれていて安心できる	ご利用者様がいつも気持ち良く利用でき様職員一同気が付いたところは声掛けをし対応している。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	24					保護者から丁寧に現状を聞き取り支援計画を立てている。モニタリングに加え、3か月後には支援計画が適切であるかどうかを保護者から聞き取りを実施している。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	19	2		2		支援計画作成時に保護者と職員に説明している。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	23					職員全員に支援計画を示し、特に留意する点については、特別に記述して示している。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	22			1	ルーティンを形成しつつ柔軟な工夫がみられる	担当者を固定せず、変化させることによって、それぞれの得意分野を活かしたセラピーが行われている。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	6	4	8	6		幼稚園や保育園に通う児童が多く、保護者からの要請を受け、保育園2か所を訪問した。お互いの問題点を共有し有意義な話し合いが持たれた。
保護者 への 説明等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	23	1				契約時に1項目ずつ丁寧に説明している。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	22	2				支援計画時とモニタリング時に一つ一つ説明している。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	12	5	5	2		家族支援は事業所内で丁寧に相談に乗り、不安が無くなるようにしています。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	23	1			報告が細やかで現況が分かりやすい 週ごとに子どもの課題は変化するのでその都度相談・あどばいすを貰えるのはありがたいです。	セラピー後に、活動を記したノートをお渡しすると共に、その日の課題や、初めてできたことなどを、しっかりお伝えしています。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	22	1		1	セラピーノートで質問すると答えてくれる。親身に話を聞いてくれる	毎回のセラピーの前に必ず拝見し、担当者か児発管がお応えしています。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	9	4	7	4	保護者に時間的に余裕がない	セラピーの時間内での保護者同士の懇談会を年に2回持つように企画します。
	16 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	20	3		1	相談しやすく親身になって客観的なアドバイスを頂けている 他の事業所職員が息子の教室ですごしているようすを見学したいとの申し入れにも快く対応して頂いた。	毎回の保護者との話し合いの中で出た課題には、時間を取ってじっくり対応しています。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	24					
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	20	1		3		「さくらみちだより」を毎月発行しています。活動の様子や、セミナーの情報提供等を行っています。
19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	20	3		1		個人情報はずべて鍵のついた書庫に収納し、面談時には相談室の物を全て撤去している。	

非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	15	1	1	7	訓練はまだのようだ	消防署への申し込みは受理されているが、署の方から「コロナ禍での実施は延期しますとの連絡があった為、実施できていない。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6	4	1	13	時間中の実施は難しいのではないかと	消防署からの許可が出次第、セラピー時間内に実施する予定。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	23	1			達成感と自信をつけてくれ日常生活に良い影響がある(2)「てらびあいく」と言って楽しみにしている。休みの日も行きたがる。	嬉しい事に、多くの児童が来所を楽しみにしてくれている。これからも、楽しく通える工夫を続けていきたい。
	23	事業所の支援に満足しているか	23	1			親子共々に支えられ感謝している 先生方が優しく相談しやすいのでとても助かっている。	保護者との話し合いの機会はかなりしっかり確保している。相談を受け入れる態勢は根に整っている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 3 月 20日

事業所名 てらびあぼけっと 港南桜道教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0		
	2	職員の配置数は適切であるか	9	0		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	0	開始前と終了後の清掃に力を入れ、清潔を心掛けている。保護者からは「いつもきれいで安心」と評価を得ている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	0		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	前回の保護者からの要望で、「たよち」を発行するようになった。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0		ホームページの案内等、保護者に働きかけるようにする。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3	小さな施設の為、第三者機関五よる評価は依頼していない。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		月1回のスーパーバイザーによる研修を実施している。後は随時振り返りを行い職員同士で相談している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		事前に面談の予定を確認し保護者とじっくり話し合える時間を持つと共に、職員の意見を聞き生かしている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9		毎年アセスメントツールを見直し、より分かりやすいフォーマットを作成している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9		全職員で確認できている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	3	個人で計画を立てているが、振り返りの中で気になったプログラムを職員間で共有している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		職員同士で情報を共有し、研鑽している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		特に年長児については小学校を視野に、鬼ごっこなど集団遊びを取り入れるようにしている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	3	支援計画を基にこれまでの記録を共有し担当したことがある職員同士で相談している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9		放課後に児童全員分の振り返りを行っている。それを児童ごとにまとめている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9		終了前の振り返りで子どもの状況が分かるようになった	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		半年ごとに、必ずモニタリングを実施すると共に、必要のあるときと利用開始3か月後に保護者との面談を行っている。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	2		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	2		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	1	該当者なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	保護者の要望により2か所の幼稚園を訪問し情報を共有、お互いに理解を深めることが出来ている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0	4	発達支援サービス提供報告書で小学校への情報提供すべき内容を伝えている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		療育センターに相談しアドバイスを受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	3	幼稚園や保育園に通っている児童が多い。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	1	児発管が定期的に会議に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		毎回のセラピー終了後に保護者に丁寧に児童の様子を伝えている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	1		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時に行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		支援計画作成時とモニタリング時に支援計画に基づいて説明し同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		保護者からの要望があれば、その都度応じている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3		保護者同士の時間が合わない為子どもの利用時間を利用して親同士の交流を図る
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9		個人情報はすべて鍵のついている書庫に収納している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		製作したものをいせたり等、得意な事や苦手な事を理解してもらえるようにしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	2		

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	3	感染症については職員の手洗い消毒検温等、徹底して行っている。緊急時対応マニュアルについては時期を見て実施予定。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	4		コロナで消防署の立ち合いが難しいので先生と子どもでいっとき避難場所を見学しに行く。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		服薬については保護者からのフェースシートで掌握している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	1	保護者が持参するもの以外は提供していない。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		どんなに小さな事柄でも記入し、相談室に掲示している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		厚労省の「虐待防止」の動画を視聴し、アンケートを実施した。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	1	身体拘束をしないで、他の児童とは別のスペースを用意するなど、クールダウンできるように工夫している。	